

夏秋どりいちご「なつおとめ」における高温対策技術 (クラウン部冷却) の確立

要約

夏秋どりいちご「なつおとめ」栽培においてクラウン部冷却による高温対策について検討したが、導入による増収効果は見られなかった。しかし、夏秋どりいちご栽培での高温対策は必要であるため、冷却技術の効果を高める要因について今後も検討する必要がある。

○ 展示のねらい

夏秋どりいちご「なつおとめ」の高温対策技術等の導入による効果を実証する。

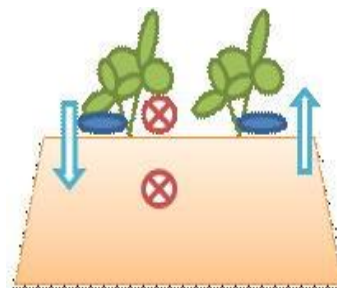
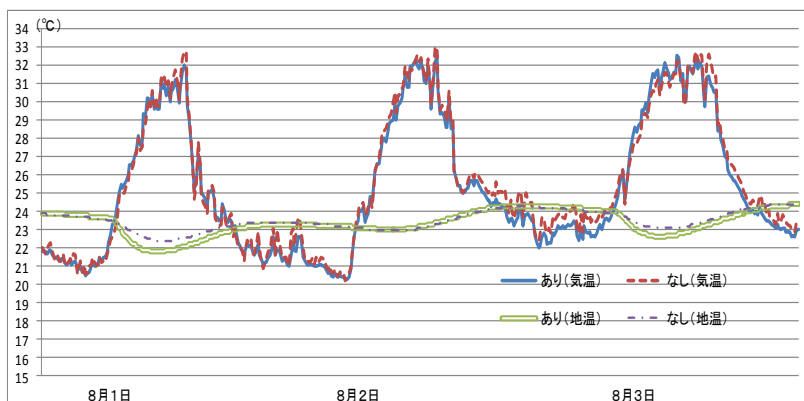
(展示内容)

・ 供試品種：なつおとめ

〔 供試区：クラウン部冷却 あり
対照区： 〃 なし

(クラウン部冷却は、ポリエチレンチューブをクラウン部分に接するように配置し、7月10日～9月10日まで、チューブ内に水(15℃)を掛け流した。)

○ 主な成果



設置模式図：

地温は深さ 15 cm

気温は生長点付近に設置

図 クラウン部冷却の有無による温度の推移

ハウス内の平均気温は8月上旬が最も高く、平均地温も高くなった。クラウン部冷却の有無での気温および地温の違いは見られなかった。

収量は冷却あり区より冷却なし区のほうが多かったが、心止まり株の発生は冷却あり区が36%となし区の40%と比較して低く、発生した芽数は冷却あり区がやや多くなった。

○ 今後の方向性

クラウン部冷却は夏秋どりいちご栽培での高温対策技術としては必要な技術と考えられるため、効果を高める要因について検討する必要がある。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：那須塩原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315